

情報処理基礎講座

企業活動と IT マネジメント 第2版

別冊 1

練習問題

電子開発学園出版局

2-7 ©SCC 2013

*この【練習問題】は、書籍『企業活動とITマネジメント 第2版』（発行：電子開発学園出版局／
発売：株式会社 SCC）のダウンロード用【別冊】として、当該書籍の読者に限定して提供しています。

■第1部■

第1章

問 1.1

企業が利害関係者（ステークホルダ）に対して果たすべき責任はどれか。

- ア CSR イ IR ウ BCR

問 1.2

次のa, bに入るべき語句を解答群から選べ。

- ・企業はその所有者（出資者）に応じて[a], [公私混合企業（第三セクタ）], [b]の3つに大別される。

[解答群]

- ア 大企業 イ 公企業 ウ 中小企業 エ 私企業

問 1.3

次のa, bに入るべき語句を解答群から選べ。

- ・私企業は、出資者の義務などの違いから[a]と[b]の2つに大別される。
- ・[a]は、合名会社、合資会社、合同会社を総称したものである。

[解答群]

- ア 持分会社 イ 持株会社 ウ 株式会社 エ 相互会社

問 1.4

企業経営の透明性を確保するために、企業は誰のために経営を行っているか、トップマネジメントの構造はどうなっているか、組織内部に自浄能力をもっているかなどの視点で、企業活動を監督・監視する仕組みはどれか。

- ア コアコンピタンス
イ コーポレートアイデンティティ
ウ コーポレートガバナンス
エ ステークホルダアナリシス

(平成28年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問75)

第2章

問 2.1

企業経営において、ステークホルダを重視する目的はどれか。

- ア 企業存続の危機につながりかねない、経営者や従業員による不祥事の発生を抑制する。
- イ 競合他社に対する差別化の源泉となる経営資源を保有し、競争力を強化する。
- ウ 経営者の権力行使をけん制し、健全な経営を行うことができる仕組みを作る。
- エ 顧客、株主、従業員などの利害関係者の満足度を向上させ、企業の継続した発展を図る。

(平成19年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問71)

問 2.2

ISMSプロセスのPDCAモデルにおいて、PLANで実施するものはどれか。

- ア 運用状況の管理
- イ 改善策の実施
- ウ 実施状況に対するレビュー
- エ 情報資産のリスクアセスメント

(平成19年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問69)

問 2.3

事業部制組織を説明したものはどれか。

- ア ある問題を解決するために一定の期間に限って結成され、問題解決とともに解散する。
- イ 業務を機能別に分け、各機能について部下に命令、指導を行う。
- ウ 製品、地域などで構成された組織単位に、利益責任をもたせる。
- エ 戦略的提携や共同開発など外部の経営資源を積極的に活用することによって、経営環境に対応していく。

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問75)

問 2.4

OJTの特徴はどれか。

- ア 一般化された知識や技術に重点を置いた教育が受けられる。
- イ 上司や先輩が実務に密着して実践的に知識や技術を教育するので、必要な能力が習得できる。
- ウ 上司や先輩の資質によらず、一定水準の業務知識が身に付けられる。
- エ 職場から離れて教育に専念できる。

(平成28年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問76)

問 2.5

マトリックス組織を説明したものはどれか。

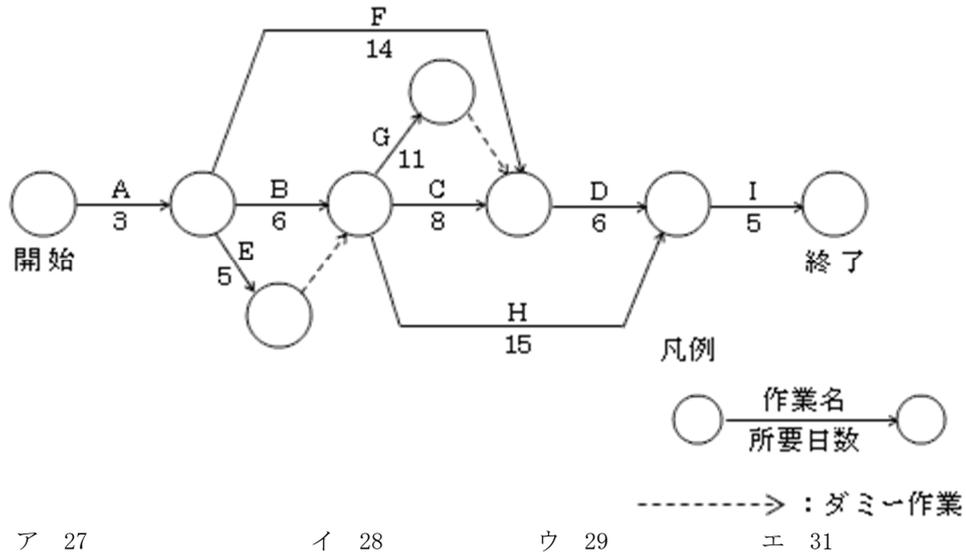
- ア 業務遂行に必要な機能と利益責任を、製品別、顧客別又は地域別にもつことによって、自己完結的な経営活動が展開できる組織である。
- イ 構成員が、自己の専門とする職能部門と特定の事業を遂行する部門の両方に所属する組織である。
- ウ 購買・生産・販売・財務など、仕事の専門性によって機能分化された部門をもつ組織である。
- エ 特定の課題の下に各部門から専門家を集めて編成し、期間と目標を定めて活動する一時的かつ柔軟な組織である。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問76)

第 3 章

問 3.1

図は、あるプロジェクトの作業（A～I）とその作業日数を表している。このプロジェクトが終了するまでに必要な最短日数は何日か。



ア 27

イ 28

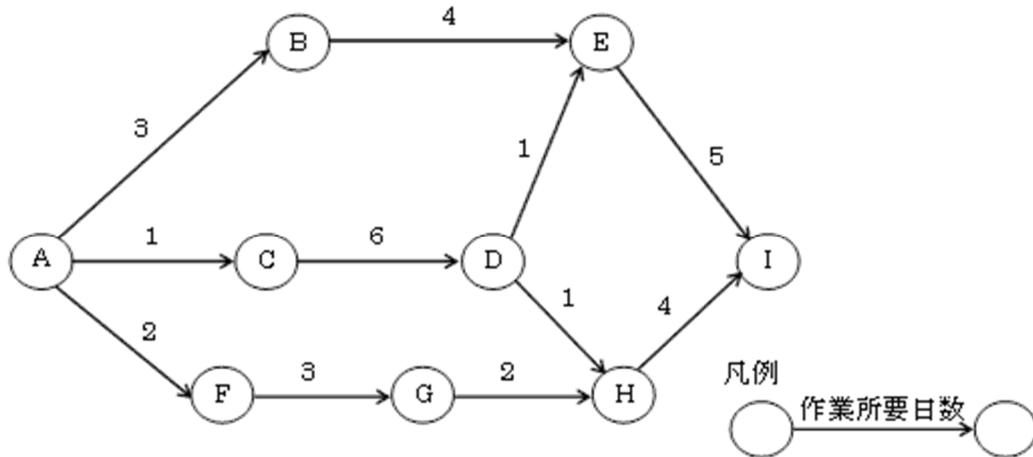
ウ 29

エ 31

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問51)

問 3.2

アローダイアグラムのクリティカルパスと、Hの最早開始日の適切な組合せはどれか。ここで、矢線の数字は作業所要日数を示し、Aの作業開始時を0日とする。



	クリティカルパス	Hの最早開始日
ア	A—B—E—I	7
イ	A—B—E—I	8
ウ	A—C—D—E—I	7
エ	A—C—D—E—I	8

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問51)

問 3.3

ある工場では表に示す3製品を製造している。実現可能な最大利益は何円か。ここで、各製品の月間需要量には上限があり、組立て工程に使える工場の時間は月間200時間までとする。

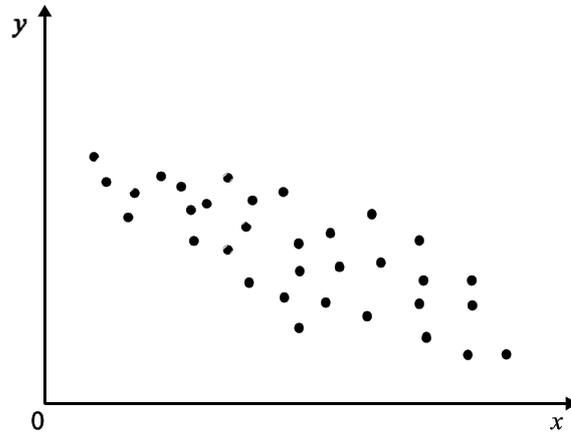
	製品X	製品Y	製品Z
1個あたりの利益 (円)	1,800	2,500	3,000
1個あたりの組立て所要時間 (分)	6	10	15
月間需要量上限 (個)	1,000	900	500

- ア 2, 625, 000
- イ 3, 000, 000
- ウ 3, 150, 000
- エ 3, 300, 000

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問72)

問 3.4

図は、製品の製造上のある要因の値 x と品質特性の値 y との関係をプロットしたものである。この図から読み取れることはどれか。

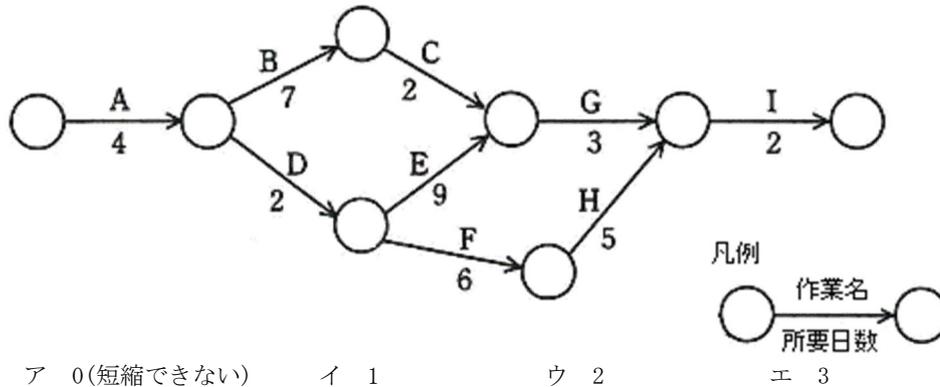


- ア x から y を推定するためには、2次回帰係数の計算が必要である。
- イ x から y を推定するための回帰式は、 y から x を推定する回帰式と同じである。
- ウ x と y の相関係数は正である。
- エ x と y の相関係数は負である。

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問76)

問 3.5

九つの作業からなるプロジェクトがある。作業Eの所要日数を9日から6日に短縮すると、このプロジェクトの最短作業日数を何日短縮できるか。



ア 0(短縮できない)

イ 1

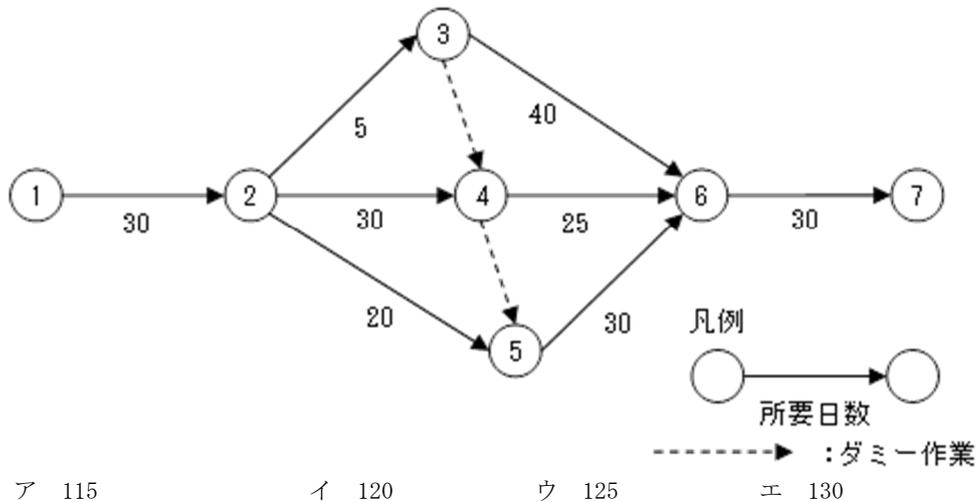
ウ 2

エ 3

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問51)

問 3.6

図のアローダイアグラムで表されるプロジェクトは、完了までに最短で何日を要するか。



(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問52)

問 3.7

ヒストグラムを説明したものはどれか。

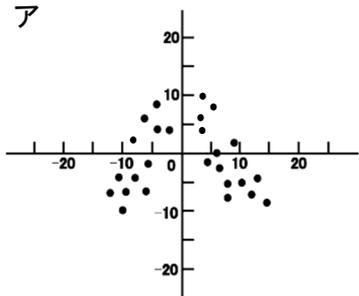
- ア 原因と結果の関連を魚の骨のような形状として体系的にまとめ、結果に対してどのような原因が関連しているかを明確にする。
- イ 時系列的に発生するデータのばらつきを折れ線グラフで表し、管理限界線を利用して客観的に管理する。
- ウ 収集したデータを幾つかの区間に分類し、各区間に属するデータの個数を棒グラフとして描き、品質のばらつきをとらえる。
- エ データを幾つかの項目に分類し、横軸方向に大きさの順に棒グラフとして並べ、累積和を折れ線グラフで描き、問題点を整理する。

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問76)

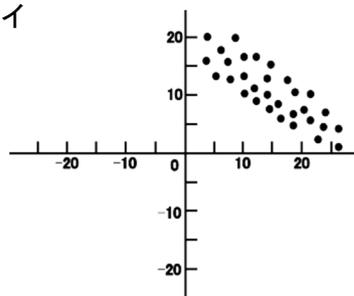
問 3.8

散布図のうち，“負の相関”を示すものはどれか。

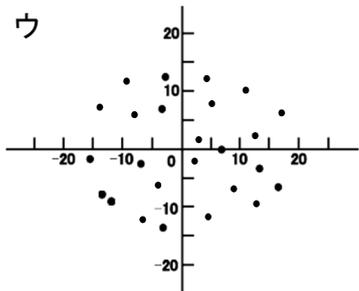
ア



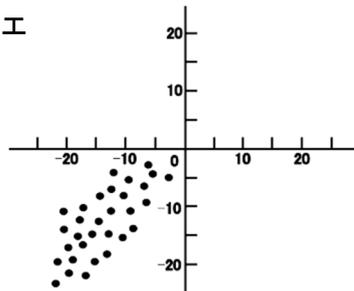
イ



ウ



エ



(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問77)

問 3.9

A社はドラッグストアチェーンで、地方都市X市を中心に20店舗を展開している。A社の店舗には、駅ビル内店舗と、郊外ショッピングモール内店舗の2種類がある。

A社のライバルであるB社は、同じく地方都市X市を中心に12店舗を展開しているドラッグストアチェーンである。B社の店舗には、駅ビル内店舗と、駅前商店街店舗の2種類がある。A社とB社の各店舗の種類と立地は、表1のとおりである。

なお、A社とB社が各店舗で取り扱う商品には、大きな相違点はない。

表1 店舗の種類と立地

店舗の種類	立地
駅ビル内店舗	駅に直結する建物内
駅前商店街店舗	駅前の商店街
郊外ショッピングモール店舗	郊外にあるショッピングモール内

X市内のY地区は、私鉄のY駅を中心に開発が活発に進められている地区である。従って、表1に示すどの種類の店舗でも出店のための店舗スペースの確保が十分可能である。A社は来年度の事業展開としてY地区への1店舗の出店を計画している。A社は出店の方針として、駅ビル内店舗又は郊外ショッピングモール内店舗の2種類の店舗に絞っている。A社がY地区について、どちらの種類の店舗を出店すべきか戦略を立案することになった。

A社は、Y地区への出店に関して外部の調査機関に依頼して、Y地区に店舗を出店した場合の売上見込みなどの調査結果を得た。

〔市場環境〕

購買動機などの基準によって、消費者全体を幾つかの独立した小部分に区分したものを消費者セグメントと呼ぶ。Y地区における、ドラッグストアを利用する消費者全体を、利用する店舗の種類で四つの独立した消費者セグメントに区分した。それぞれのセグメントに対する月間売上見込みと、各セグメントが利用する店舗の種類を表2に示す。例えば、セグメント2に対する月間売上見込みは、駅ビル内店舗と駅前商店街店舗との合計で1,000万円となる。

表2 Y地区の消費者セグメント別の売上見込みと利用する店舗の種類

消費者セグメント	セグメントに対する月間売上見込み	利用する店舗の種類		
		駅ビル内店舗	駅前商店街店舗	郊外ショッピングモール内店舗
セグメント1	2,000万円	○	×	×
セグメント2	1,000万円	○	○	×
セグメント3	1,000万円	×	○	○
セグメント4	1,000万円	×	×	○

注○：対象となる消費者セグメント×：対象とならない消費者セグメント

Y地区における競合環境に関して、次のような情報が得られている。

〔競合環境〕

- (1) X市のY地区は、これまでドラッグストアチェーン店が出店したことはない。しかし、最近のY地区の人口増加傾向を受けて、A社のライバルであるB社も来年度、Y地区に駅ビル内店舗又は駅前商店街店舗のいずれか1店舗を出店する可能性が高い。B社がどちらの種類の店舗を出店するか、又は出店しないのかに関する情報は入手できていない。
- (2) A社とB社が競合する他地区での売上実績から推測して、Y地区でA社とB社の店舗が同じ消費者セグメントを対象として販売する場合、対象とする消費者セグメントに対する売上は、双方の店舗で50%ずつ獲得するものと予想される。

設問1

調査結果に基づいて、Y地区へのA社が採り得る出店戦略とB社が採り得る出店戦略との組合せによって、売上高がどうなるかの予測に関する次の記述中の[]に入れる正しい答えを、解答群の中から選べ。

- (1) [a] 出店した場合、セグメント1及びセグメント2で見込まれる売上はB社が、セグメント3及びセグメント4で見込まれる売上はA社が独占して獲得する。
- (2) [b] 出店した場合、セグメント1及びセグメント2で見込まれる売上の合計額を、両社が50%ずつ獲得する。

解答群

- ア A社が駅ビル内店舗を、B社が駅前商店街店舗を
- イ A社が郊外ショッピングモール内店舗を、B社が駅ビル内店舗を
- ウ A社が郊外ショッピングモール内店舗を、B社が駅前商店街店舗を
- エ A社、B社ともに駅ビル内店舗を

A社では、Y地区への出店戦略の検討に当たって、B社との競合が発生する可能性があることから、B社が採り得る出店戦略を考慮した上で、A社の売上を最大化すべく、ゲーム理論を活用することとした。そこで、調査結果に基づいて、A社が採り得る出店戦略とB社が採り得る出店戦略との組合せによって、売上がどうなるか利得行列を使って整理した。

利得行列とは、ゲームの要素である“プレイヤー”、“戦略”、“利得”の3要素を、表3のような行列の形で表したものである。例えば、プレイヤーAが戦略A-1、プレイヤーBが戦略B-1を採ったときのプレイヤーA及びプレイヤーBの利得は、網掛け部分で表される。

表3 利得行列

プレイヤー B プレイヤー A	戦略 B-1	戦略 B-2
戦略 A-1	(プレイヤーAの利得, プレイヤーBの利得)	(プレイヤーAの利得, プレイヤーBの利得)
戦略 A-2	(プレイヤーAの利得, プレイヤーBの利得)	(プレイヤーAの利得, プレイヤーBの利得)

設問2

市場環境及び競争環境の記述に基づいて作成された、表4の利得行列の中、及び次の記述中の[]に入る正しい答えを、解答群の中から選べ。

表4 Y地区のA社並びにB社の月間売上高予測の利得行列

単位[百万円]

A社 \ B社		駅ビル内店舗	駅前商店街店舗	出店しない
		駅ビル内店舗	(15, 15)	([c], 15)
郊外ショッピングモール内店舗	(20, 30)	([e], 15)	(20, 30)	

ゲーム理論では、相手がどのような戦略を採ったとしても、自分にとって最も有利となる戦略を支配戦略と呼ぶ。表4で予測した利得行列をB社の立場からみると、A社がどの戦略を採った場合でも、B社は[f]ことによって自社の売上を最大とすることができる。

そこで、B社が自社の売上を最大とすることができる戦略である[f]ことを仮定した場合、A社として自社の売上を最大とすることができる戦略は[g]ことであることが分かる。

c～e に関する解答群

ア 0	イ 5	ウ 10
エ 15	オ 20	カ 25
キ 30		

f, g に関する解答群

- ア 駅ビル内店舗を出店する
- イ 駅前商店街店舗を出店する
- ウ 郊外ショッピングモール内店舗を出店する
- エ Y地区への出店を見送る

(平成23年度 春期 基本情報技術者試験 午後 問7)

問 3.10

算出式を基に生産計画を立案するとき、cは幾つか。ここで、4月1日の繰越在庫は、3月31日時点の实在庫400個である。

[算出式]

生産計画＝販売計画＋在庫計画－繰越在庫
単位 個

	生産計画	販売計画	在庫計画
4月1日	a	5,000	300
4月2日	b	4,500	250
4月3日	c	4,800	300
4月4日	d	4,600	250

ア 4,450 イ 4,550 ウ 4,850 エ 4,900

(平成23年 秋期 基本情報技術者試験 午前 問73)

第4章

問 4.1

貸借対照表を説明したものはどれか。

- ア 一定期間における、現金・預金の収入・支出を示したもの
- イ 一定期間における、資金の調達と運用を示したもの
- ウ 会計期間に属するすべての収益と費用を記載し、算出した利益を示したもの
- エ 会計期間の期末日時点での財政状態を示したもの

(平成18年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問72)

問 4.2

ROEを説明したものはどれか。

- ア 企業が保有する総資産に対する収益性を示す指標
- イ 自己資本と総資本の比率から、財務体質の健全性を示す指標
- ウ 自己資本と他人資本の有効活用の度合いを計る指標
- エ 自己資本に対する収益性を示す指標

(平成18年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問72)

問 4.3

営業損益の計算式はどれか。

- ア $\text{売上高} - \text{売上原価}$
- イ $\text{売上高} - \text{売上原価} - \text{販売費及び一般管理費}$
- ウ $\text{売上高} - \text{売上原価} - \text{販売費及び一般管理費} + \text{営業外損益}$
- エ $\text{売上高} - \text{売上原価} - \text{販売費及び一般管理費} + \text{営業外損益} + \text{特別損益}$

(平成19年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問72)

問 4.4

部品の受払記録が表のように示される場合、先入先出法を採用したときの4月10日の払出単価は何円か。

取引日	取引内容	数量(個)	単価(円)	金額(円)
4月 1日	前月繰越	2,000	100	200,000
4月 5日	購入	3,000	130	390,000
4月10日	払出	3,000		

- ア 100 イ 110 ウ 115 エ 118

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問77)

問 4.5

減価償却の方法として認められているものはどれか。

- ア 移動平均法 イ 最終取得原価法
ウ 定率法 エ 持分法

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問77)

問 4.6

財務諸表のうち、一定時点における企業の資産、負債及び純資産を表示し、企業の財政状態を明らかにするものはどれか。

- ア 株主資本等変動計算書
イ キャッシュフロー計算書
ウ 損益計算書
エ 貸借対照表

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問77)

問 4.7

表から、期末在庫品を先入先出法で評価した場合の期末の在庫評価額は何千円か。

摘要	数量(個)	単位(千円)
期首在庫	10	10
仕入	4月	1
	6月	2
	7月	3
	9月	4
期末在庫	12	

- ア 132 イ 138 ウ 150 エ 168

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問78)

第5章

問 5.1

IT統制を予防統制と発見統制に分類した場合、データ入力の誤りや不正の発見統制に該当するものはどれか。

- ア データ入力画面を、操作ミスを起こしにくいように設計する。
- イ データ入力結果の出力リストと入力伝票とを照合する。
- ウ データ入力担当者を限定し、アクセス権限を付与する。
- エ データ入力マニュアルを作成し、入力担当者に教育する。

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問60)

問 5.2

システム監査人が、監査報告書の原案について被監査部門と意見交換を行う目的として、最も適切なものはどれか。

- ア 監査依頼者に監査報告書を提出する前に、被監査部門に監査報告を行うため
- イ 監査報告書に記載する改善勧告について、被監査部門の責任者の承認を受けるため
- ウ 監査報告書に記載する指摘事項及び改善勧告について、事実誤認がないことを確認するため
- エ 監査報告書の記載内容に関して調査が不足している事項を被監査部門に口頭で確認することによって、不足事項の追加調査に代えるため

(平成29年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問58)

問 5.3

システム運用業務のオペレーション管理に関する監査で判明した状況のうち、指摘事項として監査報告書に記載すべきものはどれか。

- ア 運用責任者が、オペレータの作成したオペレーション記録を確認している。
- イ 運用責任者が、期間を定めてオペレーション記録を保管している。
- ウ オペレータが、オペレーション中に起きた例外処理を記録している。
- エ オペレータが、日次の運用計画を決定し、自ら承認している。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問58)

問 5.4

システム監査人が実施するヒアリングに関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 監査業務を経験したことのある被監査部門の管理者をヒアリングの対象者として選ぶ。
- イ ヒアリングで被監査部門から得た情報を裏付けるための文書や記録を入手するよう努める。
- ウ ヒアリングの中で気が付いた不備事項について、その場で被監査部門に改善を指示する。
- エ 複数人でヒアリングを行うと記録内容に相違が出ることもあるので、1人のシステム監査人が行う。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問59)

問 5.5

監査調書の説明はどれか。

- ア 監査人が行った監査手続の実施記録であり、監査意見の根拠となる。
- イ 監査人が監査の実施に当たり被監査部門に対して提出する、情報セキュリティに関する誓約書をまとめたものである。
- ウ 監査人が監査の実施に利用した基準書、ガイドラインをまとめたものである。
- エ 監査人が正当な注意義務を払ったことを証明するために、監査報告書とともに公表するよう義務付けられたものである。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問60)

■ 第2部 ■

第 6 章

問 6.1

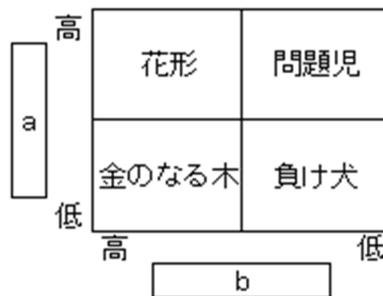
M&Aの利点はどれか。

- ア 機能別に分業を行うことで、専門化による知識と経験の蓄積ができ、規模の経済を得ることができる。
- イ 自社にない技術やノウハウを獲得することによって、新規事業を短期間で実現することができる。
- ウ 自律感による高い心理的エネルギーを活用でき、既存事業からの影響を最小限にすることができる。
- エ 製品別や市場別に事業を区分し、独立採算制とすることで、利益責任を明確にすることができる。

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問75)

問 6.2

プロダクトポートフォリオマネジメント (PPM) マトリクスのa, bに入れる語句の適切な組み合わせはどれか。



	a	b
ア	売上高利益率	市場占有率
イ	市場成長率	売上高利益率
ウ	市場成長率	市場占有率
エ	市場占有率	市場成長率

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問68)

問 6.3

アンゾフが提唱した成長マトリクスにおいて、既存市場に対して既存製品で事業拡大する場合の戦略はどれか。

- ア 市場開発
- イ 市場浸透
- ウ 製品開発
- エ 多角化

(平成29年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問69)

問 6.4

SWOT分析において、一般に脅威として位置付けられるものはどれか。

- ア 競合他社に比べて高い生産効率
- イ 事業ドメインの高い成長率
- ウ 市場への強力な企業の参入
- エ 低いマーケットシェア

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問67)

第7章

問 7.1

競争戦略において、ニッチ戦略の特徴はどれか。

- ア 市場での地位向上とトップシェア奪取を目標とした差別化戦略の展開を図る。
- イ 総市場規模を拡大することでシェアを維持しながら新規需要の獲得を図る。
- ウ 他社が参入しにくい特定の市場に対して専門化し、高利益率を図る。
- エ リーダの行動を観察し、迅速に模倣することで製品開発などのコスト削減を図る。

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問69)

問 7.2

企業経営におけるニッチ戦略はどれか。

- ア キャッシュフローの重視
- イ 市場の特定化
- ウ 垂直統合
- エ リードタイムの短縮

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問69)

問 7.3

競争上のポジションで、フォロワの基本戦略はどれか。

- ア シェア追撃などのリーダー攻撃に必要な差別化戦略
- イ 市場チャンスに素早く対応する模倣戦略
- ウ 製品、市場の専門特化を図る特定化戦略
- エ 全市場をカバーし、最大シェアを確保する全方位戦略

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問67)

問 7.4

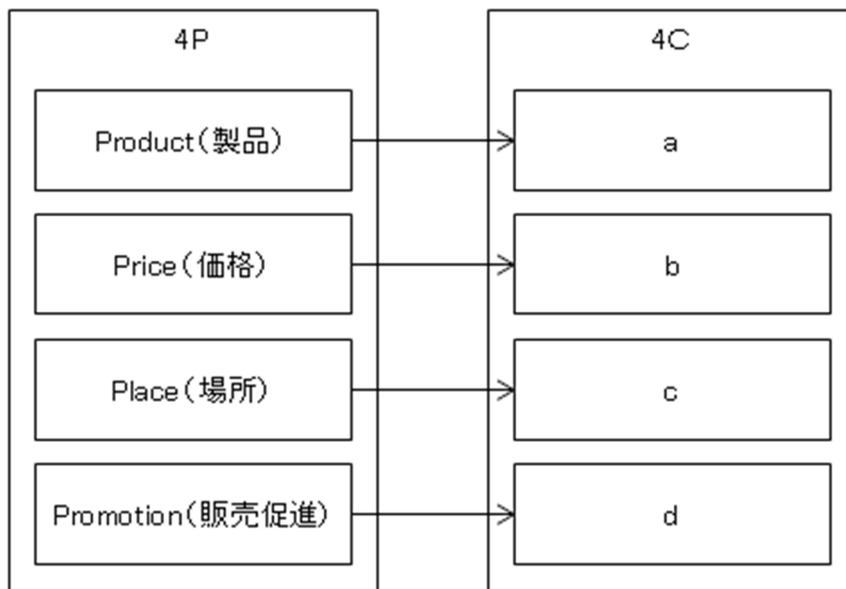
プロダクトライフサイクルにおける成長期の特徴はどれか。

- ア 市場が商品の価値を理解し始める。商品ラインもチャネルも拡大しなければならない。この時期は売上も伸びるが、投資も必要である。
- イ 需要が大きくなり、製品の差別化や市場の細分化が明確になってくる。競争者間の競争も激化し、新品種の追加やコストダウンが重要となる。
- ウ 需要が減ってきて、撤退する企業も出てくる。この時期の強者になれるかどうかを判断し、代替市場への進出なども考える。
- エ 需要は部分的で、新規需要開拓が勝負である。特定ターゲットに対する信念に満ちた説得が必要である。

(平成27年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問69)

問 7.5

売手の視点であるマーケティングミックスの4Pに対応する、買手の視点である4Cの中で、図のaに当てはまるものはどれか。ここで、ア～エはa～dのいずれかに対応する。



- ア Communication (顧客との対話)
- イ Convenience (顧客の利便性)
- ウ Cost (顧客の負担)
- エ Customer Value (顧客にとっての価値)

(平成28年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問68)

第 8 章

問 8.1

コアコンピタンスの説明はどれか。

- ア 企業の活動分野において、競合他社にはまねのできない卓越した能力
- イ 経営を行う上で法令や各種規制，社会的規範などを遵守する企業活動
- ウ 市場・技術・商品（サービス）の観点から設定した，事業の展開領域
- エ 組織活動の目的を達成するために行う，業務とシステムの全体最適化手法

(平成29年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問67)

第9章

問 9.1

エンタープライズアーキテクチャ（EA）を説明したものはどれか。

- ア オブジェクト指向設計を支援するさまざまな手法を統一して標準化したもので、クラス図などのモデル図によってシステムの分析や設計を行うための技法である。
- イ 概念データモデルを、エンティティ、リレーションシップで表現することで、データ構造やデータ項目間の関係を明らかにするための技法である。
- ウ 各業務と情報システムを、政策・業務体系、データ体系、適用処理体系、技術体系の四つの体系で分析し、全体最適化の観点から見直すための技法である。
- エ 企業のビジネスプロセスを、データフロー、プロセス、ファイル、データ源泉／データ吸収の四つの基本要素で抽象化して表現するための技法である。

（平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問61）

問 9.2

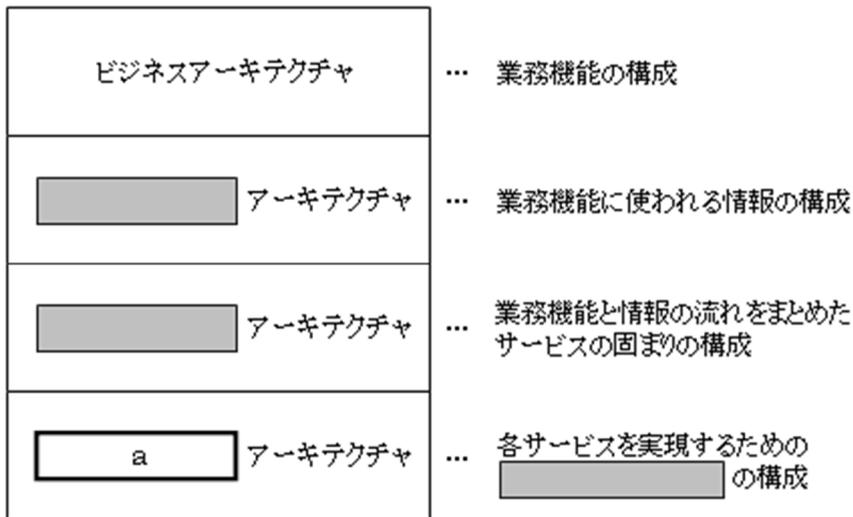
共通フレーム2007によれば、システム化計画を立案するときに考慮すべき事項はどれか。

- ア 運用を考えて、できるだけ自社の社員で開発するよう検討を進める。
- イ 失敗を避けるため、同業他社を調査し、同じシステムにする。
- ウ 情報化の構想、運用マニュアル及び障害対策を具体的に示す。
- エ 情報システムの有効性及び投資効果を明確にする。

（平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問65）

問 9.3

エンタープライズアーキテクチャに関する図中のaに当てはまるものはどれか。ここで、網掛けの部分には表示していない。



- ア アプリケーション
- ウ テクノロジ

- イ データ
- エ コンピュータ

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問61)

問 9.4

BPRを説明したものはどれか。

- ア 企業全体の経営資源の配分を有効かつ総合的に計画して管理し、経営の効率向上を図ることである。
- イ 顧客視点から業務のプロセスを再設計し、情報技術を十分に活用して、企業の体質や構造を抜本的に変革することである。
- ウ 最強の競合相手又は先進企業と比較して、製品、サービス、オペレーションなどを定性的・定量的に把握することである。
- エ 利益をもたらすことのできる、他社より優越した自社独自のスキルや技術に経営資源を集中することである。

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問62)

問 9.5

ASPとは、どのようなサービスを提供する事業者か。

- ア 顧客のサーバや通信機器を設置するために、事業者が所有する高速回線や耐震設備が整った施設を提供するサービス
- イ 顧客の組織内部で行われていた総務、人事、経理、給与計算などの業務を外部の事業者が一括して請け負うサービス
- ウ 事業者が所有するサーバの一部を顧客に貸し出し、顧客が自社のサーバとして利用するサービス
- エ 汎用的なアプリケーションシステムの機能をネットワーク経由で複数の顧客に提供するサービス

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問63)

問 9.6

CIOの果たすべき役割はどれか。

- ア 各部門の代表として、自部門のシステム化案を情報システム部門へ提示する。
- イ 情報技術に関する調査、利用研究、関連部門への教育などを実施する。
- ウ 全社的観点から情報化戦略を立案し、経営戦略との整合性の確認や評価を行う。
- エ 豊富な業務経験、情報技術の知識、リーダーシップを持ち、プロジェクトの運営を管理する。

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問75)

問 9.7

BPOを説明したものはどれか。

- ア 自社ではサーバを所有せずに、通信事業者などが保有するサーバの処理能力や記憶容量の一部を借りてシステムを運用することである。
- イ 自社ではソフトウェアを所有せずに、外部の専門業者が提供するソフトウェアの機能をネットワーク経由で活用することである。
- ウ 自社の管理部門やコールセンターなど特定部門の業務プロセス全般を、業務システムの運用などと一体として外部の専門業者に委託することである。
- エ 自社よりも人件費の安い派遣会社の社員を活用することで、ソフトウェア開発の費用を低減させることである。

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問61)

問 9.8

ビジネスプロセスを根本的に考え直し、抜本的にデザインし直すことによって、企業のコスト、品質、サービス、スピードなどのパフォーマンスを劇的に改善するものはどれか。

- ア アライアンス
- イ コアコンピタンス
- ウ ゴーイングコンサーン
- エ リエンジニアリング

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問62)

問 9.9

利用者が、インターネットを経由してサービスプロバイダ側のシステムに接続し、サービスプロバイダが提供するアプリケーションの必要な機能だけを必要なときにオンラインで利用するのはどれか。

- ア ERP
- イ SaaS
- ウ SCM
- エ XBRL

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問64)

問 9.10

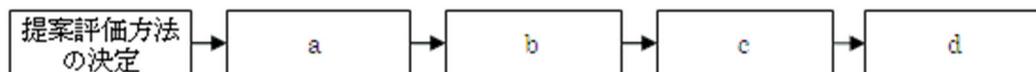
要件定義の段階で行う作業はどれか。

- ア 新たに構築する業務とシステムの仕様を明確化し、システム化範囲を明示する。
- イ 顧客が記述したニーズに合ったソフトウェアを開発する。
- ウ 事業の目的、目標を達成するために必要なシステム化の方針を立案する。
- エ ソフトウェア製品の運用及び利用者に対する運用支援を行う。

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問66)

問 9.11

“提案評価方法の決定”に始まる調達プロセスを、調達先の選定、調達の実施、提案依頼書(RFP)の発行、提案評価に分類して順番に並べたとき、cに入るものはどれか。



- ア 調達先の選定
- イ 調達の実施
- ウ 提案依頼書(RFP)の発行
- エ 提案評価

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問67)

問 9.12

利害関係者要件の確認において、定義された要件に対して、発生した変更要求の実装までの経過を明らかにできることを表すものはどれか。

- ア インターオペラビリティ
- イ セキュリティ
- ウ トレーサビリティ
- エ ユーザビリティ

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問65)

問 9.13

システムインテグレータの説明として、適切なものはどれか。

- ア 自社の業務過程の一部を、より得意とする外部の企業に委託する。
- イ 情報システムの企画、構築、運用などの業務を一括して請け負う。
- ウ ソフトウェアの必要な機能だけを選択して購入できる。
- エ ビジネス用のアプリケーションソフトウェアをインターネットでレンタルする。

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問66)

問 9.14

業務部門が起票した入力原票を、情報システム部門でデータ入力する場合、情報システム部門の業務として、適切なものはどれか。

- ア 業務部門が入力原票ごとの処理結果を確認できるように、処理結果リストを業務部門に送付している。
- イ 入力原票の記入内容に誤りがある場合は、誤りの内容が明らかなきに限り、入力担当者だけの判断で入力原票を修正し、入力処理している。
- ウ 入力原票は処理期日まで情報システム部門で保管し、受領枚数の点検などの授受確認は、処理期日直前に一括して行うことにしている。
- エ 入力済みの入力原票は、不正使用や機密情報の漏えいなどを防止するために、入力後直ちに廃棄することにしている。

(平成27年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問57)

問 9.15

SOAを説明したものはどれか。

- ア 企業改革において既存の組織やビジネスルールを抜本的に見直し、業務フロー、管理機構、情報システムを再構築する手法のこと
- イ 企業の経営資源を有効に活用して経営の効率を向上させるために、基幹業務を部門ごとでなく統合的に管理するための業務システムのこと
- ウ 発注者とITアウトソーシングサービス提供者との間で、サービスの品質について合意した文書のこと
- エ ビジネスプロセスの構成要素とそれを支援するIT基盤を、ソフトウェア部品であるサービスとして提供するシステムアーキテクチャのこと

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問62)

問 9.16

CIOが果たすべき主要な役割はどれか。

- ア 情報化戦略を立案するに当たって、経営戦略を支援するために、企業全体の情報資源への投資効果を最適化するプランを策定する。
- イ 情報システム開発・運用に関する状況を把握して、全社情報システムが最適に機能するように具体的に改善点を指示する。
- ウ 情報システムが企業活動に対して健全に機能しているかどうかを監査することによって、情報システム部門にアドバイスを与える。
- エ 全社情報システムの最適な運営が行えるように、情報システムに関する問合せやトラブルに関する報告を受け、担当部門に具体的指示を与える。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問75)

第 10 章

問 10.1

組み込みシステムの用途として、適切でないものはどれか。

- ア FA機器又は医療機器を制御するシステム
- イ 音響，映像機器を制御するシステム
- ウ 銀行のATM端末システム
- エ 列車の座席予約を管理するホストシステム

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問74)

問 10.2

CRMを説明したものはどれか。

- ア 卸売業者・メーカーが，小売店の経営活動を支援してその売上と利益を伸ばすことによって，自社との取引拡大につなげる方法である。
- イ 企業全体の経営資源を有効かつ総合的に計画して管理し，経営の高効率化を図るための手法である。
- ウ 企業内のすべての顧客チャネルで情報を共有し，サービスのレベルを上げて顧客満足度を高め，顧客ロイヤルティの最適化に結び付ける考え方である。
- エ 生産，在庫，購買，販売，物流などのすべての情報をリアルタイムに交換することによって，サプライチェーン全体の効率を大幅に向上させる経営手法である。

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問70)

問 10.3

電子商取引に使用される，企業間でデータ交換を行う仕組みはどれか。

- ア CA
- イ EDI
- ウ SSL
- エ XBRL

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問74)

問 10.4

ナレッジマネジメントを説明したものはどれか。

- ア 企業内に散在している知識を共有化し、全体の問題解決力を高める経営を行う。
- イ 迅速な意思決定のために、組織の階層をできるだけ少なくした平型の組織構造によって経営を行う。
- ウ 優れた業績を上げている企業との比較分析から、自社の経営革新を行う。
- エ 他社にはまねのできない、企業独自のノウハウや技術などの強みを核とした経営を行う。

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問71)

問 10.5

①～③の手順に従って処理を行うものはどれか。

- ① 今後の一定期間に生産が予定されている製品の種類と数量及び部品構成表を基にして、その構成部品についての必要量を計算する。
- ② 引当可能な在庫量から各構成部品の正味発注量を計算する。
- ③ 製造／調達リードタイムを考慮して構成部品の発注時期を決定する。

ア CAD イ CRP ウ JIT エ MRP

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問73)

問 10.6

RFIDを利用したものはどれか。

ア ICタグ イ 磁気カード ウ バーコード エ メモリカード

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問74)

問 10.7

サプライチェーンマネジメントを説明したものはどれか。

- ア 購買、生産、販売及び物流を結ぶ一連の業務を、企業間で全体最適の視点から見直し、納期短縮や在庫削減を図る。
- イ 個人がもっているノウハウや経験などの知的資産を共有して、創造的な仕事につなげていく。
- ウ 社員のスキルや行動特性を管理し、人事戦略の視点から適切な人員配置・評価などを行う。
- エ 多様なチャネルを通して集められた顧客情報を一元化し、活用することで、顧客との関係を密接にしていく。

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問70)

問 10.8

XBRLを説明したものはどれか。

- ア インターネットのホームページにおける画像、音声、ビデオなどを含むページを表現できるページ記述言語である。
- イ テキストや画像だけでなく、レイアウトやフォントの情報などもファイルに収めることができる文書表示用のフォーマットである。
- ウ 当初は小型コンピュータ用に開発された、さまざまな帳票を簡単に作成することを主たる目的としたプログラム言語である。
- エ 文書情報やデータの構造を記述するためのマークアップ言語であるXMLを、財務情報の交換に応用したデータ記述言語である。

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問71)

問 10.9

ナレッジマネジメントを説明したものはどれか。

- ア 企業内に散在している知識を共有化し、全体の問題解決力を高める経営を行う。
- イ 迅速な意思決定のために、組織の階層をできるだけ少なくしたフラット型の組織構造によって経営を行う。
- ウ 優れた業績を上げている企業との比較分析から、自社の経営革新を行う。
- エ 他社にはまねのできない、企業独自のノウハウや技術などの強みを核とした経営を行う。

(平成27年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問70)

問 10.12

ロングテールを説明したものはどれか。

- ア 一般に80：20という経験則として知られ、企業の売上の80%は全商品の上位20%の売れ筋商品で構成される、又は品質不良による損失額の80%は全不良原因の上位20%の原因に由来する。
- イ インターネットを活用したオンラインショップなどでは、販売機会が少ない商品でもアイテム数を幅広く取りそろえることによって、機会損失のリスクを減らす効果がある。
- ウ 企業が複数の事業活動を同時に営むことによって、経営資源の共有が可能になり、それを有効に利用することで、それぞれの事業を独立に行っているときよりもコストが相対的に低下する。
- エ ネットワークに加入している者同士が相互にアクセスできる有用性を“ネットワークの価値”とすれば、ネットワークの価値は加入者数の2乗に近似的に比例する。

(平成28年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問74)

問 10.13

CRMの目的はどれか。

- ア 顧客ロイヤルティの獲得と顧客生涯価値の最大化
- イ 在庫不足による販売機会損失の削減
- ウ 製造に必要な資材の発注量と発注時期の決定
- エ 販売時点での商品ごとの販売情報の把握

(平成28年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問69)

問 10.14

サプライチェーンマネジメントを説明したものはどれか。

- ア 購買、生産、販売及び物流を結ぶ一連の業務を、企業内、企業間で全体最適の視点から見直し、納期短縮や在庫削減を図る。
- イ 個人がもっているノウハウや経験などの知的資産を組織全体で共有して、創造的な仕事につなげていく。
- ウ 社員のスキルや行動特性を把握し、人事戦略の視点から適切な人員配置・評価などのマネジメントを行う。
- エ 多様なチャネルを通して集められた顧客情報を一元化し、活用することによって、顧客との関係を密接にしていく。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問69)

第 11 章

問 11.1

契約タイプで一括請負契約に属するものはどれか。

- ア 請け負った作業の履行に対するコストが償還され、さらにプロジェクトのコスト見積りに対して一定比率の固定フィーを受け取る。
- イ 請け負った作業の履行に対するコストが償還され、事前に取り決めたフィーと、契約で定めたパフォーマンス目標レベルの達成度に応じたインセンティブを受け取る。
- ウ 契約で合意した内容を実現するために、実施された労務に対する対価が支払われる。
- エ 契約で合意した内容を実現するために、指定された期日までに決められた価格で作成された成果物に対して対価が支払われる。

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問67)

問 11.2

著作権法において、保護の対象とならないものはどれか。

- ア インターネットで公開されたフリーソフトウェア
- イ ソフトウェアの操作マニュアル
- ウ データベース
- エ プログラム言語や規約

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問78)

問 11.3

特許権を説明したものはどれか。

- ア 産業上利用することができる新規の発明を独占的・排他的に利用できる権利であり、所轄の官庁への出願及び審査に基づいて付与される権利
- イ 事業者が自己の商品を他人の商品と識別するために商品について使用する標識を、独占的・排他的に利用できる権利
- ウ 新規の美術・工芸・工業製品などで、その形・色・模様・配置などについて加える装飾上の工夫を、独占的・排他的に利用できる権利
- エ 文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属する著作物を、その著作者が独占的・排他的に支配して利益を受ける権利

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問79)

問 11.4

システム開発を外部に発注する場合、受託側が瑕疵（かし）担保責任を負うものはどれか。

- ア 委任契約 イ 請負契約 ウ パート契約 エ 派遣契約

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問68)

問 11.5

WTO加盟国の政府関係機関での採用が見込まれる製品の開発に際して、どの規格を採用すべきか。

- ア ANSI規格 イ IEEE規格 ウ ISO規格 エ JIS規格

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問71)

問 11.6

プログラム中のアイデアやアルゴリズムは保護しないが、プログラムのコード化された表現を保護する法律はどれか。

- ア 意匠法 イ 商標法 ウ 著作権法 エ 特許法

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問78)

問 11.7

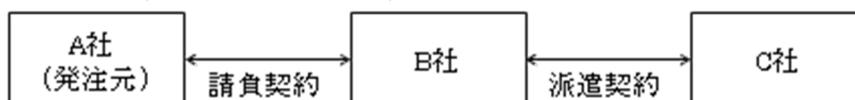
他人のIDとパスワードを使って、インターネットでオンラインショップのWebサーバに侵入し、会員情報を窃取しようとした。この行為を違法とする法律はどれか。

- ア 刑法 イ 電気通信事業法
ウ 不正アクセス禁止法 エ プロバイダ責任制限法

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問79)

問 11.8

図のような契約の下で、A社、B社、C社の開発要員がプロジェクトチームを組んでソフト開発業務を実施するとき、適法な行為はどれか。



- ア A社の担当者がB社の要員に直接作業指示を行う。
イ A社のリーダーがプロジェクトチーム全員の作業指示を行う。
ウ B社の担当者がC社の要員に業務の割り振りや作業スケジュールの指示を行う。
エ B社の担当者が業務の進捗によってC社の要員の就業条件の調整を行う。

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問80)

問 11.9

A社は顧客管理システムの開発を、情報システム子会社であるB社に委託し、B社は要件定義を行ったうえで、設計・プログラミング・テストまでを協力会社であるC社に委託した。C社では優秀なD社員にその作業を担当させた。このとき、開発したプログラムの著作権はどこに帰属するか。ここで、関係者の間には、著作権の帰属に関する特段の取決めはないものとする。

- ア A社 イ B社 ウ C社 エ D社員

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問78)

問 11.10

労働者派遣法に基づいた労働者の派遣において、労働者派遣契約の関係が存在するのはどの当事者の間か。

- ア 派遣先事業主と派遣労働者 イ 派遣先責任者と派遣労働者
ウ 派遣元事業主と派遣先事業主 エ 派遣元事業主と派遣労働者

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問79)

問 11.11

日本において、産業財産権（工業所有権）と総称される四つの権利はどれか。

- ア 意匠権，実用新案権，商標権，特許権
イ 意匠権，実用新案権，著作権，特許権
ウ 意匠権，商標権，著作権，特許権
エ 実用新案権，商標権，著作権，特許権

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問78)

問 11.12

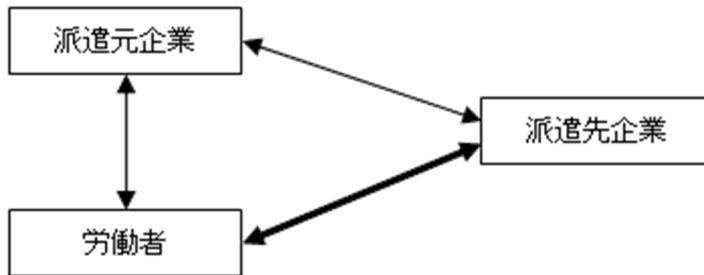
A社がシステム開発を行うにあたり、外部業者B社を利用する場合の契約に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 委任契約ではB社に成果物の完成責任がないので、A社がB社の従業員に対して直接指揮命令権を行使する。
イ 請負契約によるシステム開発では、特に契約に定めない限り、開発されたプログラムの著作権はB社に帰属する。
ウ 請負契約、派遣契約によらず、いずれの場合のシステム開発でも、B社にはシステムの完成責任がある。
エ 派遣契約では、開発されたプログラムに重大な欠陥が発生した場合、B社が瑕疵(かし)担保責任がある。

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問79)

問 11.13

労働者派遣法に基づく、派遣先企業と労働者との関係（図の太線部分）はどれか。

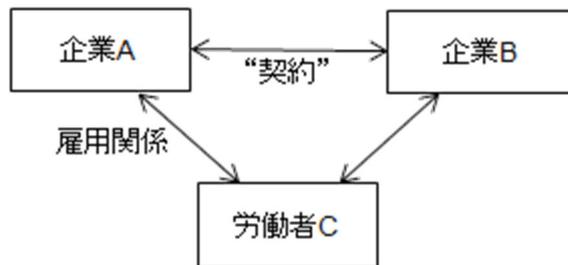


- ア 請負契約関係
- イ 雇用関係
- ウ 指揮命令関係
- エ 労働者派遣契約関係

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問80)

問 11.14

図は、企業と労働者の雇用関係を表している。企業Bと労働者Cの関係を表す記述として正しいものはどれか。



- ア “契約”が請負契約で、企業Aが受託者、企業Bが委託者であるとき、企業Bと労働者Cの間には、指揮命令関係が生じる。
- イ “契約”が出向にかかわる契約で、企業Aが企業Bに労働者Cを出向させたとき、企業Bと労働者Cの間には指揮命令関係が生じる。
- ウ “契約”が労働者派遣契約で、企業Aが派遣元、企業Bが派遣先であるとき、企業Bと労働者Cの間にも、雇用関係が生じる。
- エ “契約”が労働者派遣契約で、企業Aが派遣元、企業Bが派遣先であるとき、企業Bに労働者Cが出向しているといえる。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問79)

■第3部■

第12章

問 12.1

プロジェクトステークホルダに対して、プロジェクトマネージャーが果たす責任のうち、不要なものはどれか。

- ア プロジェクト見通しの説明
- イ スコープ、リスクなどの情報の共有
- ウ プロジェクト予算の確保
- エ 明確な成果物の評価方法の提示

問 12.2

プロジェクトの遂行にあたり、ステークホルダ登録簿を作成した。その結果、プロジェクトへの関心、プロジェクトへの影響力により4種類に大別できた。このとき、プロジェクトへの参画を促すべく説得すべきステークホルダはどれか。

- ア プロジェクトへの関心と影響力が共に高い人や組織
- イ プロジェクトへの関心は高いが、影響力は低い人や組織
- ウ プロジェクトへの関心は低いが、影響力は高い人や組織
- エ プロジェクトへの関心も影響力が共に低い人や組織

問 12.3

ソフトウェアの開発規模から開発工数を見積る際に、必要な情報はどれか。

- ア 開発期間
- イ 開発要員数
- ウ 工程ごとの工数配分比率
- エ 生産性

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問52)

問 12.4

表は、1人で行うプログラム開発の開始時点での計画表である。6月1日に作業を開始し、6月16日の終了時点でコーディング作業の25%が終了した。6月16日の終了時点で残っている作業は全体の約何%か。ここで、開発は、土日を除く週5日間に行うものとする。

作業	計画工数	完了予定日
仕様書作成	2日	6月 2日(火)
プログラム設計	5日	6月 9日(火)
テスト計画書作成	1日	6月10日(水)
コーディング	4日	6月16日(火)
コンパイル	2日	6月18日(木)
テスト	3日	6月23日(火)

- ア 30 イ 47 ウ 52 エ 53

(平成21年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問53)

問 12.5

あるシステムを開発するための工数を見積ったところ150人月であった。現在までの投入工数360人月で、出来高は全体の3割であり、進捗に遅れが生じている。今後も同じ生産性が続くと想定したとき、このシステムの開発を完了させるためには何人月の工数が超過するか。

- ア 50 イ 90 ウ 105 エ 140

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問52)

問 12.6

入力、出力などを基に複雑さを加味してシステム規模を見積る方法であり、開発工数の見積りにも使われるものはどれか。

- ア COCOMO イ 標準タスク法
ウ ファンクションポイント法 エ プットナム(Putnum)モデル

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問53)

問 12.7

リスクが顕在化しても、その影響が小さいと想定されるので、損害の負担を受容するリスク対応はどれか。

- ア リスク移転 イ リスク回避
ウ リスク低減 エ リスク保有

(平成21年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問60)

問 12.8

つぎの条件でITサービスを提供している。SLAを満たすためには、サービス時間帯中の停止時間は1か月に最大で何時間以内であればよいか。ここで、1か月の営業日は30日とする。

[SLA の条件]

- ・サービス時間帯は営業日の午前6時から翌日午前1時まで。
- ・可用性 99.5%以上とすること。

ア 1 イ 2 ウ 3 エ 4

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問56)

問 12.9

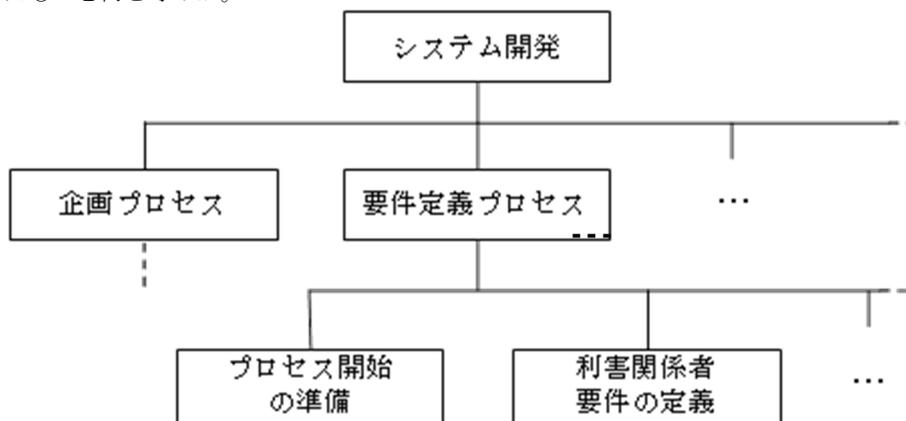
マスタファイル管理に関するシステム監査項目のうち、可用性に該当するものはどれか。

- ア マスタファイルが置かれているサーバを二重化し、耐障害性の向上を図っていること
- イ マスタファイルのデータを複数件まとめて検索・加工するための機能が、システムに盛り込まれていること
- ウ マスタファイルのメンテナンスは、特権アカウントを付与された者だけに許されていること
- エ マスタファイルへのデータ入力チェック機能が、システムに盛り込まれていること

(平成22年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問59)

問 12.10

図のように、プロジェクトチームが実行すべき作業を上位の階層から下位の階層へ段階的に分解したものを何と呼ぶか。



ア CPM イ EVM ウ PERT エ WBS

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問51)

問 12.11

システムを構成するプログラムの本数とプログラム1本当たりのコーディング所要工数が表のと
き、システムを95日間で開発するには少なくとも何人の要員が必要か。ここで、コーディングのほ
かに、設計やテストの作業が必要であり、それらの作業の遂行にはコーディング所要工数の8倍の工
数がかかるものとする。

	プログラム本数	プログラム1本あたりの コーディング所要工数(人日)
入力処理	20	1
出力処理	10	3
計算処理	5	9

ア 8 イ 9 ウ 12 エ 13

(平成22年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問53)

問 12.12

ソフトウェア開発プロジェクトで行う構成管理の対象項目として、適切なものはどれか。

- ア 開発作業の進捗状況 イ 成果物に対するレビューの実施結果
ウ プログラムのバージョン エ プロジェクト組織の編成

(平成24年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問51)

問 12.13

システム開発プロジェクトにおける、ソフトウェア品質の管理指標の一つとして、最も適切なも
のはどれか。

- ア WBSを構成するワークパッケージの完了数
イ 個人別のプログラムの生産性
ウ 成果物ごとのレビュー時間
エ プログラムのバージョン

(平成24年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問54)

問 12.14

プロジェクトの特性はどれか。

- ア 独自性はあるが、有期性がない
イ 独自性はないが、有期性がある
ウ 独自性も有期性もある
エ 独自性も有期性もない

(平成25年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問51)

問 12.15

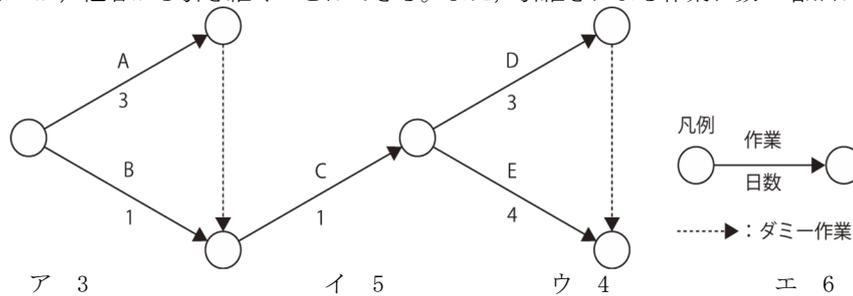
ソフトウェア開発においてWBS (WorkBreakdownStructure) を使用する目的として、適切なものはどれか。

- ア 開発の所要日数と費用がトレードオフの関係にある場合に、総費用の最適化を図る。
- イ 作業の順序関係を明確にして、重点管理すべきクリティカルパスを把握する。
- ウ 作業の日程を横棒(バー)で表して、作業の開始や終了時点、現時点の進捗を明確にする。
- エ 作業を階層に分解して、管理可能な大きさに細分化する。

(平成25年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問52)

問 12.16

図は作業A～Eで構成されるプロジェクトのアローダイアグラムである。全ての作業を1人で実施する予定だったが、2日目から6日目までの5日間は、別の1人が手伝うことになった。手伝いがない場合と比較し、開始から終了までの日数は最大で何日短くなるか。ここで、一つの作業を2人で同時に行えないが、他者から引き継ぐことはできる。また、引継ぎによる作業日数の増加はないものとする。



(平成25年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問53)

問 12.17

ファンクションポイント法の説明はどれか。

- ア 開発するプログラムごとのステップ数を積算し、開発規模を見積もる。
- イ 開発プロジェクトに必要な作業のWBSを作成し、各作業の工数を見積もる。
- ウ 外部入出力や内部論理ファイル、照会、インタフェースなどの個数や特性などから開発規模を見積もる。
- エ 過去の類似例を探し、その実績と差異などを分析評価して開発規模を見積もる。

(平成25年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問55)

問 12.18

プロジェクトの目的及び範囲を明確にするマネジメントプロセスはどれか。

- ア コストマネジメント イ スコープマネジメント
- ウ タイムマネジメント エ リスクマネジメント

(平成28年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問52)

問 12.19

全部で100画面から構成されるシステムの画面を作成する。100画面を規模と複雑度で分類したときの内訳は次のとおりである。

- 規模が“小”で、複雑度が“単純”である画面数：30
- 規模が“中”で、複雑度が“普通”である画面数：40
- 規模が“大”で、複雑度が“普通”である画面数：20
- 規模が“大”で、複雑度が“複雑”である画面数：10

全ての画面を作成する総工数を、表の作成工数を用いて見積もると何人日になるか。ここで、全部の画面のレビューと修正に5人日を要し、作業の管理にレビューと修正を含めた作業工数の20%を要するものとする。

画面当たりの作成工数

単位[人日]

規模 \ 複雑度	単純	普通	複雑
小	0.4	0.6	0.8
中	0.6	0.9	1.0
大	0.8	1.0	1.2

- ア 80 イ 85
- ウ 101 エ 102

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問52)

第 13 章

問 13.1

ITサービスマネジメントの管理プロセスはどれか。

- ア サービスレベル管理
- イ スケジュール管理
- ウ 品質管理
- エ リスク管理

(平成24年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問55)

問 13.2

SLAを策定する際の方針のうち、適切なものはどれか。

- ア 考えられる全ての項目に対し、サービスレベルを設定する。
- イ 顧客及びサービス提供者のニーズ、並びに費用を考慮して、サービスレベルを設定する。
- ウ サービスレベルを設定する全ての項目に対し、ペナルティとしての補償を設定する。
- エ 将来にわたって変更が不要なサービスレベルを設定する。

(平成25年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問56)

問 13.3

データのバックアップ方法に関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ア 業務処理がバックアップ処理と重なるとレスポンスが遅くなる可能性がある場合には、両方の処理が重ならないようにスケジュールを立てる。
- イ バックアップ作業時間を短くするためには、別のファイル名にしたバックアップデータを同一記憶媒体内に置く。
- ウ バックアップデータからの復旧時間を短くするためには、差分バックアップを採用する。
- エ バックアップデータを長期保存するためには、ランダムアクセスが可能な媒体にする。

(平成25年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問57)

問 13.4

非機能要件定義を説明したものはどれか。

- ア 業務要件のうち、システムで実現が難しく、手作業となる業務機能を明確化する。
- イ 業務要件の実現に必要な、品質要件、技術要件、運用要件などを明確化する。
- ウ 業務要件を確定させるために、現行システムで不足している機能を明確化する。
- エ 業務要件を実現するために、新たに導入するパッケージの適合性を明確化する。

(平成25年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問65)

問 13.5

サービスデスク組織の構造とその特徴のうち、ローカルサービスデスクのものはどれか。

- ア サービスデスクを1拠点又は少数の場所に集中することによって、サービス要員を効率的に配置したり、大量のコールに対応したりすることができる。
- イ サービスデスクを利用者の近くに配置することによって、言語や文化が異なる利用者への対応、専用要員によるVIP対応などができる。
- ウ サービス要員は複数の地域や部門に分散しているが、通信技術を利用することによって、単一のサービスデスクであるかのようなサービスが提供できる。
- エ 分散拠点のサービス要員を含めた全員を中央で統括して管理することによって、統制のとれたサービスが提供できる。

(平成27年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問55)

問 13.6

ITILによれば、サービスデスク組織の特徴のうち、バーチャル・サービスデスクのものはどれか。

- ア サービスデスク・スタッフは複数の地域に分散しているが、通信技術を利用することによって、利用者からは単一のサービスデスクのように見える。
- イ 専任のサービスデスク・スタッフは置かず、研究や開発、営業などの業務の担当者が兼任で運営する。
- ウ 費用対効果の向上やコミュニケーション効率の向上を目的として、サービスデスク・スタッフを単一又は少数の場所に集中させる。
- エ 利用者の拠点と同じ場所か、物理的に近い場所に存在している。

(平成28年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問55)

問 13.7

サービスマネジメントシステムにおけるサービスの可用性はどれか。

- ア あらかじめ合意された時点又は期間にわたって、要求された機能を実行するサービス又はサービスコンポーネントの能力
- イ 計画した活動が実行され、計画した結果が達成された程度
- ウ 合意したレベルでサービスを継続的に提供するために、サービスに深刻な影響を及ぼす可能性のあるリスク及び事象を管理する能力
- エ サービスの要求事項を満たし、サービスの設計、移行、提供及び改善のために、サービス提供者の活動及び資源を、指揮し、管理する、一連の能力及びプロセス

(平成29年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問55)

問 13.8

システムの開発部門と運用部門が別々に組織化されているとき、システム開発を伴う新規サービスの設計及び移行を円滑かつ効果的に進めるための方法のうち、適切なものはどれか。

- ア 運用テストの完了後に、開発部門がシステム仕様と運用方法を運用部門に説明する。
- イ 運用テストは、開発部門の支援を受けずに、運用部門だけで実施する。
- ウ 運用部門からもシステムの運用に関わる要件の抽出に積極的に参加する。
- エ 開発部門は運用テストを実施して運用マニュアルを作成し、運用部門に引き渡す。

(平成29年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問56)

問 13.9

サービスマネジメントにおいて、サービスレベル管理の要求事項はどれか。

- ア サービス継続及び可用性に対するリスクを評価し、文書化する。
- イ 提供するサービスのサービスカタログとSLAを作成し、顧客と合意する。
- ウ 人、技術、情報及び財務に関する資源を考慮して、容量・能力の計画を作成、実施及び維持する。
- エ 予算に照らして費用を監視及び報告し、財務予測をレビューし、費用を管理する。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問55)

問 13.10

ITサービスマネジメントの活動のうち、インシデント及びサービス要求管理として行うものはどれか。

- ア サービスデスクに対する顧客満足度が合意したサービス目標を満たしているかどうかを評価し、改善の機会を特定するためにレビューする。
- イ ディスクの空き容量がしきい値に近づいたので、対策を検討する。
- ウ プログラムを変更した場合の影響度を調査する。
- エ 利用者からの障害報告を受けて、既知の誤りに該当するかどうかを照合する。

(平成29年度 春期 基本情報技術者試験 午前 問57)

問 13.11

新規システムにおけるデータのバックアップ方法に関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ア 業務処理がバックアップ処理と重なると応答時間が長くなる可能性がある場合には、両方の処理が重ならないようにスケジュールを立てる。
- イ バックアップ処理時間を短くするためには、バックアップデータをバックアップ元データと同一の記憶媒体内に置く。
- ウ バックアップデータからの復旧時間を短くするためには、差分バックアップを採用する。
- エ バックアップデータを長期間保存するためには、ランダムアクセスが可能な媒体にする。

(平成29年度 秋期 基本情報技術者試験 午前 問56)

Memorandum